

新春を迎えて



一宮市長

谷 一 夫

新年あけましておめでとうございます。
市民の皆様におかれましては、明るい希望に満ちた平成20年の新春をお迎えのことと、心からお喜び申し上げます。併せて、日ごろから市政に深いご理解とご協力をいただいておりますことを厚くお礼申し上げます。

一宮市は、合併後3度目の新年を迎え、合併協議で策定した新市建設計画に盛り込まれた内容についても着実に取り組みを進めてまいりました。昨年3月には、市民の皆様と行政とが互いに手を携えて、未来へ

はばたく「心ふれあう躍動のまち一宮」をつくりあげることを目指して新しい市民憲章を制定しました。市民憲章本文の各項目の先頭には、「い」「ち」「の」「み」「や」を配置し、市民の皆様が親しまれ、何度も口ずさんでもらえるよう願いを込めています。

また、平成20年度から向こう10年間の市の基本方針となる第6次一宮市総合計画は、市民参加の手法を用い、成果指標によりその進捗状況^{しんぱくじょう}を管理できる仕組みを取り入れています。さらに、課題ごとに市民、行政、関係機関等の役割分担値を示しており、市民との協働によるまちづくりを進めていけるものと考えています。

今後も、新市建設計画に掲げた将来像「木曾の清流に映え、心ふれあう躍動都市」の実現に向けて、市民の皆様のご意見をお聞きしながら、一体感のあるまちづくりに全力で取り組んでまいりますので、引き続きご支援ご協力をいただきますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、本年も皆様のご健康で明るくお過ごしいただきますよう心からお祈り申し上げます、年頭のあいさついたします。



一宮市議会議長

松井 哲朗

新年あけましておめでとうございます。

市民の皆様におかれましては、健やかに新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。

昨年は社会保険庁の年金記録問題、企業の不正・偽装など、社会的信頼を揺るがすニュースが相次ぎました。7月の参議院議員選挙の結果を受けて、政局も混迷を極めています。また国民の間の経済的格差がさらに拡大しつつあることが問題になっております。

一方、本市では4月に市議会議員選挙が実施され、今回に限り特例で旧2市1町に

それぞれ選挙区を設け、定数41人（旧一宮市33人、旧尾西市7人、旧木曾川町4人）を選出いたしました。市議会といたしましては、引き続き新市としての一体感を築いていく期間であるとの思いであります。

現在、市民病院本館、総合体育館、尾張一宮駅ビル、（仮称）木曾川文化会館などの建設計画が進行中であります。財政運営につきましても、現在も厳しい状況であることに変わりはなく、今後も徹底した行財政改革と経費節減に努めてまいります。

さて、平成20年には第6次総合計画が策定されます。計画に掲げられた各施策の早期実現に向け、まい進していかねばなりません。市議会としても開かれた議会を目指し、さまざまな議会改革を行うとともに、市民の皆様の負託にこたえ、将来の一宮市を担う子どもたちが夢を持つことのできるよう、目指す将来像に向けたまちづくりに全力を傾注してまいります。今後も市民の皆様の一層のご支援、ご協力をいただきますようお願い申し上げます。

本年が皆様にとってよりよい年となりますよう祈念いたしまして、年頭のあいさついたします。